

神奈川県立鎌倉高等学校 令和元(平成31)年度 学校評価報告書 実施結果

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (文書での評価)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>○複眼的多面的なものを見て、深く思考し、論理的で批評力・判断力・洞察力・行動力に富む生徒を育む教育課程に整備する。</p> <p>○高度で知的好奇心を刺激する授業を教員・生徒の相互で作り上げるために、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>○各教科及び総合的な学習の時間の取組を通して、歴史文化への造詣を深め、また、課題設定・解決力・表現力を育む。</p>	<p>①学力と進学実績の向上を目指し、具体的な評価視点・水準を確認しつつ、さらなる効果的なカリキュラムの研究を行う。</p> <p>②グローバル教育研究推進校としての取組みの成果を踏まえ、理数教育推進校としての全校的取組に着手する。</p> <p>③教科及び総合的な学習・探究の時間の学びを通して、歴史と文化の恩恵を踏まえ、根拠に基づいた推論と論理的思考による課題設定・解決・表現力を育む。</p>	<p>①30年度入学生のカリキュラム及び県の示す指標に基づいて、生徒の進路希望を実現するために、効果的な指導に取り組む。</p> <p>②全生徒が取り組む英語資格認定試験を通して、生徒の英語力向上を図り、キャリア形成に資する。</p> <p>・海外姉妹校交流及び海外在住生徒交流プログラムを成功させる。</p> <p>③総合的な探究の時間を中心に取り組む「K-ARP」の学びを通して、根拠に基づく論理的な推論と表現の力を育てる。</p>	<p>①主体的、対話的、深い学びの実践に組織的に取り組めたか。</p> <p>・他校参加型公開研究授業を効果的に実施できたか。</p> <p>・生徒による授業評価の項目4について、全教科平均で3.20ポイント以上の結果になったか。</p> <p>・長期休業中に発展的な補習が実施できたか。</p> <p>②英語資格認定試験に取り組むことが、生徒の英語力の向上に結びつけられたか。また、卒業時に英検2級程度の力が身についたか。</p> <p>・海外姉妹校交流及び海外在住生徒交流プログラムの成果を将来のグローバルリーダー育成の機会とすることができたか。</p> <p>・新規WGを適切に組織し効果的に運用できたか。</p> <p>③「K-ARP」の成果として、生徒が根拠に基づく推論と検証結果を、ふさわしい形で発表することができたか。</p>	<p>①主体的・対話的・深い学びについて、科学的リテラシーと国際性の育成を目指し、全教科で組織的に取り組んだ。</p> <p>・公開研究授業では、他校教員12名、ティーチャーズカレッジ受講者5名を招き、授業後に意見交換、成果と課題を校内で共有した。さらに鳴門教育大学副学長による講演及び指導助言を仰いだ。</p> <p>・生徒による授業評価については項目の変更があったが、他者の考えを知り自らの考えを広げ深める授業形態が校内全体で定着した。</p> <p>・土曜及び長期休業中にのべ37講座580名受講の講習を実施、発展的な補習の機会とできた。</p> <p>②英語資格認定試験、オーストラリア姉妹校交流事業及び海外語学研修事業により、異文化理解・グローバルな社会に対する関心が高まった生徒の割合が61.5パーセント(前年度比0.2ポイント減)。卒業に際しては英検2級程度の力を身につけた。</p> <p>③「K-ARP」の成果として、生徒が根拠に基づく推論と検証結果を、ポスターセッション形式で主体的に発表することができた。</p>	<p>①教材の共通化を進め、同僚教員のスキルを、授業改善に生かしていく。</p> <p>・各教科が理数教育推進校としての取組みを意識し、論理と根拠に基づく思考力を育む指導方法をさらに模索し続ける。</p> <p>・生徒のキャリア実現に資する魅力ある長期休業中の補習の設定。</p> <p>②海外交流に係る引率業務と当該教員のライフワークバランス。</p> <p>③「K-ARP」の学びをさらに推進するために、他校との連携及び県の支援を引き出す必要がある。</p>	<p>①目標や評価の観点に沿った達成状況であり、評価できる。</p> <p>各企画実施後の教師側における検討の場作りが大切である。</p> <p>②評価の観点に記載されている英語力の向上に結びつけられたか、将来のグローバルリーダー育成の機会とすることができたか、新規WGを適切に組織し、効果的に運用できたかなど記載がなく的確な評価をすることが難しい。</p> <p>③「K-ARP」の成果として、ポスターセッション形式で主体的に発表することができたことを評価する。</p>	<p>①他校参加型公開研究授業を効果的に実施し、休業中に発展的な補習を行い、主体的、対話的、深い学びの実践に組織的に取り組むことができた。理数教育推進校として教科横断的な視点から、授業が行えるような仕組みを構築していきたい。</p> <p>②英語資格認定試験に取り組むことができたが、年度途中の変更等もあり、混乱をきたした。また、多くの生徒が卒業時に英検2級程度の力を身につけることができた。</p> <p>・海外姉妹校交流及び海外在住生徒交流プログラムを成功することができ、各々の生徒がその成果を発表することができた。</p> <p>・新規WGとして情報管理WGを組織し、生徒や職員の研修も行う術を取得した。</p> <p>③「K-ARP」の成果として、生徒が根拠に基づく推論と検証結果を、ポスターセッション形式で主体的に発表することができた。</p>	<p>①、②他校参加型公開研究授業を効果的に実施した。各教科が理数教育推進校としての取組みを意識し、教科横断的な立場に立ち、論理と根拠に基づく思考力を育む指導方法をさらに模索し続ける。</p> <p>・生徒のキャリア実現に資する魅力ある長期休業中の補習の設定と、早い時期のアナウンスにより、多くの受講者が集めることができた。</p> <p>②海外交流に係る引率業務と当該教員の負担を減らすよう、学校全体の行事として全職員で取り組む。</p> <p>③「K-ARP」の学びをさらに推進するために、他校との連携及び県の支援を引き出す。</p>
2 生徒指導・支援	<p>○社会性・協調性・体力・行動力・自己管理能力や人権意識を養うために多様な経験をさせ、生徒が意欲的・主体的に人間形成を行うことができる環境を整える。</p> <p>○一人ひとりの個に応じた支援を充実させる。</p>	<p>①生徒一人ひとりが集団への帰属感を深め、自己有用感を高める学校行事の活用を図る。</p> <p>②一人ひとりの生徒状況を把握するためにきめこまかな生徒情報の共有化を図る。</p> <p>③生徒の人権意識を高めるための効果的な支援を行う。</p>	<p>①学校行事において、生徒一人ひとりが自己の役割を認識し、主体的に取り組む、創造性を伸ばすような支援方法を図る。</p> <p>②課題を抱える生徒情報の共有と組織的で有効な支援を一層図る。</p> <p>③SNSの最新情報を研究し、トラブルの未然防止につなげ、またLGBTへの理解等人権意識させる機会を設ける。</p>	<p>①学校行事の準備や本番及び終了後に自己有用感や主体性が高まったか。</p> <p>②生徒情報交換会、学年会を通じて定期的な生徒情報の共有が実施されたか。</p> <p>③生徒の人権意識を高め、SNSトラブル防止と、LGBT理解が促進されたか。</p>	<p>①学校行事の準備や本番の際に生徒自ら考え、積極的に主体性をもって取り組んだ。また、行事の事後アンケートでは、内容や取組等への回答も肯定的な意見が多く、自己有用感を高めることができた。</p> <p>②課題を抱える生徒の情報共有をコア会議で定期的に行い、支援体制の構築に努めた。</p> <p>③SNSトラブルの未然防止に努めた。</p>	<p>①学校行事に対して、生徒自らがより主体的に取り組む、運営することができるよう、検討・指導していく必要がある。</p> <p>②年度当初よりコア会議を設定し早期に生徒情報を共有、学年会と協力し要支援生徒への体制を固め、情報共有を進展させる。</p>	<p>①生徒の事後アンケートにより、自己有用感を高められたことが確認できた。</p> <p>②個性ある生徒への対応は、情報の取得や生徒の主体性を見出す方策など、今後とも大きな課題だろう。</p>	<p>①学校行事の準備や本番の際に生徒自ら考え、積極的に主体性をもって取り組んだ。よって自己有用感を高めることができた。</p> <p>②課題を抱える生徒の情報共有をコア会議で定期的に行い、支援体制の構築に努めた。SCとの振り返り等を含めると、かなりの時間がかかり、中心的な役割を担うコーディネーターが多く必要となる。</p> <p>③SNSトラブルの未然防止に努めるため、HR等を使って繰り返し伝えていった。</p>	<p>①学校行事に対して、生徒自らがより主体的に取り組む、運営することができるよう、検討・指導していく必要がある。</p> <p>②年度当初よりコア会議を設定し、定期的に行い、支援体制の構築に努めた。SCとの振り返り等を含めると、かなりの時間がかかり、中心的な役割を担うコーディネーターが多く必要となる。</p> <p>②教育相談コーディネーターを増やす。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (文書での評価)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○難関国公立大学・難関私立大学への合格者数を増加させる。	①生徒一人ひとりが自分の目標に照らして、学習プランを構築し、着実に達成させていくための仕組みを作る。 ②進路実現に向けて個々の興味や適性を深く掘り下げられるような、機会を設ける。	①学習計画を立てる習慣をつけ、定期的に達成度を確認できるようにツールを用意する。 ②講演会や、大学説明会などを設定し、外部からの刺激により、個々の興味を膨らませる仕組み作りを行う。	①模擬試験を各学年効果的に活用できたか。 ①学年ごとに、PDC Aサイクルを確認できたか。 ②適切な進路選択につながる支援ができたか。	①年3回の模擬試験について、試験結果の返却時に個別面談を実施するなど、きめ細やかな指導ができる仕組みを作ることができた。 ①学習手帳を導入し、生徒が自分自身で学習計画を立てられるよう導いた。 ②学部学科ガイダンスと、大学説明会を実施。個々の志望に合わせ、分科会の形で実施できた。 ②新たな試みとして、年度末に3年生による、在校生対象の受験体験報告会を行うことを決めた。	①学習手帳については、未だ活用できていない生徒も散見され、今後積極的に使わせるための仕組みが必要である。 ②昨年度より国公立大学を受験する生徒が増えたが、2割にも満たない状況であり、早々に科目を減らすことのないよう、働きかけをしていきたい。	①模擬試験の結果返却時に個別面談を実施するなど、個別支援計画を実施したことを評価した。 ・新たな取組みである学習手帳は、近年高等教育全般で用いられる手法として注目されていて、生徒個人へのフィードバック効果の見極めが重要である。	①年3回の模擬試験について、試験結果の返却時に個別面談を実施するなど、きめ細やかな指導ができる仕組みを作ることができた。さらに模擬試験の必要性を職員や生徒に伝えていくことも必要である。 ・学習手帳を導入し、生徒が自分自身で学習計画を立てられるよう導いた。 ②学部学科ガイダンスと、大学説明会を実施。個々の志望に合わせ、分科会の形で実施できた。	①学習手帳については、有効的な活用例を示し、積極的に使わせるよう工夫をする。 ②国公立大学を受験する生徒が増えてきたが、2割にも満たない状況であり、早々に科目を減らすことのないようにするために、どのような働きかけをすべきか検討する。
4	地域等との協働	○保護者・地域・大学・分教室との連携・協働による教育を推進する。	①「かまくら学」の成果を踏まえ、コミュニティ・スクールを軸にした地域との協働により、地域に根ざした鎌倉高校のありかたを模索する。 ②藤沢養護学校分教室との交流を継続的に行う。	①コミュニティ・スクール各部会の提言を受けとめ学校運営に必要な支援に関する情報を有効利用する。 ②授業や特別教育活動(学校行事など)を通して分教室と本校生徒との交流・理解が深まるように支援する。	①学校運営協議会各部会の学校運営に係る必要な支援に関する情報を効果的に運用できたか。 ②分教室との交流を通して生徒間の交流が深まり、協力関係を築くことができたか。	①コミュニティ・スクール初年度の取組として、学校運営協議会を年度内に3回実施し(書面実施を含む)、本校に必要な外部支援について検討した。 ②ボランティア委員会・生徒会・分教室が連携して、ピラ配りや小さき花の園見学、募金活動などを行った。	①働き方改革と絡めて労力対効果を検証しつつ必要な支援を行う必要がある。 ②今後も生徒会が主体となり、分教室との協力関係を築いていく。	①学校運営協議会各部会の情報を効果的に運用できたか否かの判断ができることまで来ていない。 ・コミュニティ・スクールとして近隣にある施設等への災害時の支援を考えるなど、具体的な活動、運営の方向を創造し、ステップアップする方策を見出したい。	①コミュニティ・スクール初年度の取組として、学校運営協議会を年度内に3回実施した。(書面実施を含む)今後は、本校に必要な外部支援についてさらに検討したいと考える。 ②ボランティア委員会・生徒会・分教室が連携して、ピラ配りや小さき花の園訪問、募金活動などを行った。今後さらに分教室との関わりを模索していく必要がある。	①必要な支援をより具体的に話し合うために、議題設定の工夫をする必要がある。単なる学校活動報告会で終わらない実のある協議会となるように、テーマを絞り、年間を通して協議していく工夫も必要だ。 ②今後も生徒会が主体となり、分教室との協力関係を築いていく。
5	学校管理 学校運営	○すべての職員が一丸となって学校改革に臨み、魅力ある学校づくりに組織的に取り組む。	①事故・不祥事に関する情報の共有及び校内研修体制の充実を図り、事故・不祥事未然防止に努める。 ②職員・生徒が一体となって災害に強い学校づくりを行う。	①職員会議等で研修会を日常的に実施することで事故不祥事防止に対する個々の意識を高める。 ・私費会計の適正な執行を図る。 ②様々な災害や事故を想定した避難訓練、防災訓練、DIG訓練等を実施する。 ・活用しやすい防災マニュアルの見直しと、職員生徒への理解の浸透を図る。	①時宜に適した効果的な研修会が開けたか。 ・職員の事故・不祥事防止に対する意識を高めることができたか。 ・私費会計の執行が適正に実施されたか。 ②避難訓練、DIG訓練等を実施し、具体的な災害等に対する意識を高める事ができたか。 ・帰宅班、帰宅経路等の確認ができたか。	①交通安全(交通法規・飲酒運転の撲滅)に係わる職員研修を行い、外部講師による科学的研修を通し、職員の事故・不祥事防止意識を高めた。 ・適正な私費会計の執行を実施することができた。 ②昨年度に引き続き、藤沢市からハザードマップの提供を受け、充実したDIG訓練を実施することができた。	①外部講師の人選及び、研修会の設定と日程調整に課題。 ・私費会計に理解を深めるため研修会を実施する。 ②地域との連携も深めながら引き続き充実した避難訓練を実施していきたい。	②学校内外の事故防止策が十分に検討されている。ハザードマップの扱いについては、専門家の出講を仰ぐ事項であろう。	①外部講師による交通安全(交通法規・飲酒運転の撲滅)に係わる職員研修を行い、職員の事故・不祥事防止意識を高めた。 ・適正な私費会計の執行を実施することができた。 ②昨年度に引き続き、藤沢市からハザードマップの提供を受け、充実したDIG訓練を実施することができた。	①外部講師の人選及び、研修会の設定と日程調整を行い、有意義な研修となるよう工夫する。 ・私費会計への理解を深めるため新しい担当者への指導を続ける。 ②地域との連携も深めながら引き続き充実した避難訓練を実施していきたい。